

稲橋ゆみ子/谷山きょう子 活動レポート

所属 立川・生活者ネットワーク 発行日/2016年9月10日
 〒190-0004立川市柏町4-56-10 2階 TEL.042-535-9110 FAX.042-535-9116
<http://inahashi.seikatsusha.me/> <http://taniyama.seikatsusha.me/>

遠くのダムより 足元の水源・地下水を守るための 地下水保全条例を!

2002年8月に、市内2つの水源井戸から発ガン性の物質「1,4-ジオキサン」が検出され、すぐに水源井戸は休止となり、配水系統は地下水から河川水に変更されました。水道水の安全は確保されましたが、汲み上げを停止した「地下水」は行き場を失い、さらに汚染が拡散する恐れがあります。



立川市独自の「1,4-ジオキサン」調査が実現

私は、東京都水道局や環境局、立川市にも、汚染に対しての原因究明と汚染除去、水源井戸の復活を求めてきましたが、有効な汚染除去対策が確立されず、深井戸の汚染源の特定はできないということで、現在も水源井戸は休止のままです。そこで、市議会議員の政務活動費を使って周辺の民間井戸への影響を調査し、その結果を持って、立川市での水質調査項目に「1,4-ジオキサン」を加えるよう提案し、実現しました。民間井戸の深さ(10~15m)と水源井戸の深さ(100~200m)と違いはあるものの、問題意識を持ち続ける重要な意味があると考えます。

水質調査を継続し、健全な水循環をめざす

2014年に「水循環基本法」ができ、「水は国民共有の貴重な財産」と位置づけられました。生活者ネットワークでは、毎年、水質調査を行い、市内の河川・地下水・湧水の状態をみています。また、貴重な水資源である地下水を守るために、合成界面活性剤使用の洗剤や除草剤は使わないなど、その危険性を話し、健全な水循環をめざしています。きれいな地下水を後世に引き継ぎ、今後起こると考えられる世界的水飢饉等にも備えて、「水」の視点からのまちづくりのしくみ(地下水保全条例)が必要です。

市議会議員 稲橋 ゆみ子

調査日 2016年7月18日

	化学的酸素要求量 (COD)	アンモニウム態窒素	亜硝酸態窒素	硝酸態窒素	りん酸態りん
多摩川	8mg/L	0.2mg/L	0.01mg/L	1mg/L	0.2mg/L
残堀川	4mg/L	0.2mg/L	0.005mg/L	0.5mg/L	0.1mg/L
富士見緑地湧水	4mg/L	0.2mg/L	0.005mg/L	5mg/L	0.02mg/L
矢川緑地湧水	0mg/L	0.2mg/L	0.005mg/L	1mg/L	0.05mg/L

COD: 汚れた水を化学薬品で分解するときに使われる酸素の量を表す。
 アンモニウム態窒素: 人や動物の排泄物、工場の排水に含まれる。
 硝酸態窒素: 肥料等に含まれる。
 亜硝酸態窒素: 硝酸態窒素を含む地下水等を飲料した場合、体内の腸内細菌で変化した物質。
 リン酸態りん: 畑の肥料や牧場などからの排水に含まれる。

このレポートは政務活動費で作成しています。

介護保険の改正 「住み慣れた地域で暮らし続けるために」

6月議会 厚生産業委員会報告

「新しい総合事業」スタート!

「要支援1・2」の介護保険サービスを制度からはずし、自治体ごとに「家事援助」や「デイサービス」を市民力、地域資源等を活用する「生活支援」や「自立支援」を実施する「新総合事業」が始まりました。市は、ヘルパー等有資格者でなくてもお手伝いできる「生活支援サポーター研修」を実施しています。私は、健康体操のサポーター養成講座(東京都健康長寿医療センターと連携)を実施している「東大和市方式」の導入を提案してきましたが、健康体操の改善はなされたものの、指導者の人材育成、講習会の質の充実等への予算化が必要です。



稲橋ゆみ子

医療と介護の連携をすすめる「立川市在宅医療・介護連携推進協議会」が実現

これまで提案してきた、医師、訪問看護師、薬剤師、歯科医師、地域包括支援センターの「多職種」と市民参加で、公開された協議会が実現しました。

協議会の「在宅医療・介護連携部会」では、切れ目のない医療・介護の支援体制・連携した相談支援について等、「認知症部会」では、認知症初期集中支援チーム、認知症ケアパスについて等検討しています。また、認知症アウトリーチ事業を「共済組合連合立川病院」と協定を結び実施。医療等へつながっていない方に対し、包括支援センター等とチームをつくり、支援していく事業です。2016年4月1日現在、市内の65歳以上の方で7,564人、17.8%の方が要支援・要介護の認定を受けています。介護度の重度化を避け、住み慣れた自宅で暮らし続けられるよう提案を続けます。

知ってほしい 中学校給食調理場建設に伴う自校式給食がなくなる日

6月議会 文教委員会報告

6月の文教委員会で「学校給食共同調理場の新設に係る基本的な考え方について」

が報告されました。防災機能や調理場の用地、管理運営方法のほか、次の2点が示されました。

- 1、中学校給食の共同調理場方式化について
- 2、小学校単独調理校の共同調理場方式化について 中学校給食共同調理場の新設に合わせて、単独調理校(8校)の給食を共同調理場方式に移行する。

小学校では、校舎面積等の制約から学校給食衛生管理基準に沿った、汚染、非汚染区域の区画分離等の整備やアレルギー対応食専用室の設置が難しいということが、自校式給食をなくす理由となっています。

この「学校給食共同調理場の新設に係る基本的な考え方について」では、調理員の顔が見える、匂いや音、五感を生かしたおいしい自校式給食の良さを消し去ろうとしています。現に自校式の方が、共同調理場よりも給食の残食が少ない調査結果が出ており、給食がしっかりと食育として、子どもたちに根づいていることを証明しています。

立川市は、中学校給食の共同調理場方式化、小学校単独調理校の共同調理場方式化等について、学校給食運営審議会に諮問し、2017年2月に答申を受けることになっており、答申を受けて、「学校給食共同調理場の新設に係る方針」を決定します。学校給食に関するご意見をお寄せください。



谷山きょう子



「立川での生物多様性」を
 求む! ツバメの子育て情報2016

4月26日、昨年、巣のあったところ(幸町、砂川町、柏町)を観察して回りました。「求む! ツバメの子育て情報」では、市内から情報が寄せられました。ありがとうございます。一部ご紹介いたします。

- ・毎年ツバメが来てくれます。無事に巣立つととても幸せな気持ちになります。
- ・私も巣の研究をしています。3月14日ころ、飛来してきました。
- ・図書館でツバメについて調べてみたら、水辺の葦原の環境が大切なことが分かりました。残堀川合流付近の多摩川では堰堤工事により、葦原がなくなっています。再生する方法はないでしょうか?

55年前に都市計画決定された道路を歩く



①武蔵砂川駅近くスーパーマーケットとコンビニの間から歩き始める



②道路計画では、この送電線のあたりの西武線を横断する



③こびら橋会館の北側を抜けていく



⑥砂川6丁目、玉川上水の南側から見たところ。この部分の玉川上水を横断する計画



⑦柏町団地の間を通過して東へ進む



④砂川4丁目、道路計画は前方の植木畑を横断する



⑥写真⑤を背にして南方向を臨む。立3・1・34号線も優先整備路線となっている



⑧柏町4丁目、芋窪街道を背にして、歩いてきた方向を臨む



⑨当日の終点、芋窪街道に到着

2016年3月に「東京における都市計画道路の整備方針」第四次事業化計画(2016年～2025年)が策定されました。50年以上前に計画された未着手の道路が本当に必要なかと疑問の声が寄せられています。7月20日、優先整備路線に指定された「立川3・3・3号線」の一部(武蔵砂川駅周辺から芋窪街道まで)を、1/2500の縮尺の「計画図」を見ながら歩いてみました。

2016年3月、東京都における都市計画道路の整備方針(第四次事業化計画)で示された立川市内の優先整備路線*

- 東京都の施行
- 立川市の施行

*優先整備路線とは

今後10年間で優先的に事業に着手する路線のこと。事業着手後、用地買収や街路築造工事などを経て道路を完成させる。

12路線が優先整備に指定される

第四次事業化計画においては、4つの基本目標①都市活力の強化 ②都市防災の強化 ③安全で快適な都市空間の創出 ④都市環境の向上を踏まえ、15の検証項目に照らし「将来の都市計画道路」の検証が実施されました。

その中で、今後10年間で優先的に整備すべき路線を「優先整備路線」、特別の事由により検討を必要とする路線「計画内容再検討路線」、必要が確認されなかった路線「見直し候補路線」、新たに検討する都市計画道路の概ね4つに分類され、立川市内では、12の路線が優先整備路線と位置付けられました。

玉川上水を横断する3・3・3号線

実際に歩いてみると、西武線を横断することや、国の史跡名勝天然記念物であり、東京都歴史環境保全地域である玉川上水を横断しなければならないことが確認できました。途中、計画道路上にお住まいの方とお話することができましたが、「優先整備路線のことを知らない」と驚いていました。戦後から高度経済成長へ大きく飛躍し、人口・交通量の増加、社会も暮らしも大きく変わりました。しかし、現在、人口減少・少子高齢社会を迎え、環境配慮型・持続可能な社会のあり方が求められる中で、これらの都市計画道路が本当に必要か、生活者の視点から検証する必要があると考えます。都市計画道路についてのご意見を、立川・生活者ネットワーク稲橋ゆみ子・谷山きょう子までお寄せください。